



米こめフェスタ

11月3日、四万十緑林公園で「土佐の豊穰祭2019 第15回 米こめフェスタ」を開催しました。

当日は晴天にも恵まれ町内外から約1万8千人が訪れ、四万十町産の食材を使った、シェフの特製コース料理やおかみさん市バイキング料理・四万十大正天然うなぎ丼など限定料理を求めて多くの人でにぎわいました。

シェフコーナーでは第1回目から数え15年目にあたり、シェフにとっても一つの区切りとなり、米こめフェスタでのシェフ最後を飾る素晴らしいコース料理がふるまわれました。

さらに「仁井田米おにぎり大食い大会」や地元の学校・団体によるステージの催しのほか、会場では仁井田米のおにぎり無料配布や仁井田米の量り売りが行われ、会場内は盛り上がりを見せました。



シェフ三人
「ありがとう！」



▲左から笹垣朋幸シェフ、下元俊宏シェフ、三木竜太シェフ



▲バイキング料理



▲屋台 ニラソバ



▲屋台 あゆ



▲シェフの料理



▲シェフの料理

季節の風景 12月

冬将軍



ナポレオンはヨーロッパ征服後にロシアを攻めたのですが、冬の寒さのためロシアから撤退をしました。このことをイギリスの新聞が「General Frost (霜の将軍)」と表現したことが始まりと言われています。

1812年、フランスのナポレオンはロシアに攻め込もうとして、夏になる前に軍を進めました。ロシアはナポレオンの攻撃をかわし、モスクワが占領されても合戦には持ち込みませんでした。その年は、冬の訪れが早く、夏装備のナポレオン軍は、撤退を余儀なくされます。防寒服や食料・弾薬の供給が間に合わず、大軍を維持することができなくなってしまったのです。ロシアは、自らの兵力は温存し、ナポレオンを撃退したことになります。その言葉が寒くて厳しい冬のことを表わすように現在では使われています。

天気予報で「冬将軍」の言葉が出るときには、高気圧・低気圧の曲線がタテ方向の縞模様で、西高東低の冬型の気圧配置になり、すごく強い寒波がやってきます。

「余の辞書に不可能の文字はない」で名高いナポレオンですが、広大なロシアの冬将軍にはかなわなかったようです。

冬を待つ用意かしこし 四畳半 正岡子規

今月の



「紆余曲折の塊」のナイスガイ！



はしもと たかひろ
橋本 貴洋さん
(新開町)

橋本さんは今年4月に赴任した地域おこし協力隊員です。それまでは大阪で暮らしておられました。実は窪川の新聞町出身です。

窪川小学校から窪川中学校、須崎高校と進みました。高校3年生の秋には大学の推薦入試に合格し、3月の卒業を待ただけと「そこまでは割と順調といえますか。」(本人談)：だったそうです。ところが、推薦入試の合格を学校から知らされてからしばらく経って、まさかの「人違い」だったことが判明！橋本さんは愕然！そこから慌てて再び受験勉強に勤しむも、事すでに遅しで、志望校には合格できませんでした。

そもそも「ゲームプログラマーになりたかった」という橋本さんになりたかったという頃、橋本さん

▲ファッション業界にいた頃の橋本さん

は、大阪のコンピューター系の専門学校に進むことになりました。2年生になってゲーム制作会社への就職活動をしていましたが、結局システムエンジニア(SE)の会社内定。しかし、ここですなりかないのがどうやら橋本さんという人。

も、なかなか休みが取れない忙しい毎日が続きました。仕事に忙殺される日々の中で思ったそうです。「ファッションが好きで始めた仕事なのに、いつしかお金のためにやっている」と。二線から退こう。そう考えた橋本さんは、飲食店などでも働きたが、初心を思い出していました。「自分が好きなものをお勧めして相手に喜んでもらうことが、自分の心に響くことなんだ」と。そして、いつかふるさとに帰ってきたいと考えていた橋本さんは、さまざまな紆余曲折を経て、地域おこし協力隊員となりました。「自分に、地域おこしの専門的なスキルがあるわけではなくけれど、自分の経験や、誰かに喜んでもらえることが自分の喜びであるという気持ちで、このミッションに生かしていきたいと思っています」と語る橋本さんは、聞けば聞くほど「紆余曲折の塊」のナイスガイです！！